

第22回JPHMA
コングレ

海外の来賓講演

歴史に残る思う

ケイトバーチ氏の研究

長崎大学名誉教授 井名義典 氏による講演

今回のコングレに海外から沢山の方が来賓講演を行った。伝統医学、ホメオパシーなどを組み合わせて新型コロナウイルス感染症を克服しつつあるインド共和国からは、政府のホメオパシーの普及とリサーチをリードし新型コロナウイルス問題に取り組んでこられたR.K.マンチャンドラ博士に「COVID-19パンデミックへのホメオパシーからの視点：テリからの経験」をテーマに発表。

また、神経生理学博士としてアジアではトップのホメオパシー民間研究所の代表を務め、ホメオパシーの国際学術大会も主宰されるアニルバン・スクール博士にはホメオパシーの国際学術大会も「ジェモセラピー(細胞分裂の最も活発な新芽・



工藤聖子ホメオパスら症例発表

2002年に日本で名誉会長と共に「予防接種は果たして有効か?」のタイトルで現代医学のワクチン神話を崩壊される歴史的講演を行った生化学者でホメオパスのトレバー・ガン氏です。また、8月に新型コロナウイルスへのワクチン接種の中止をいち早く発表したルーマニアからは、3年前に来日JPHMAコングレでも発表いただいた植物療法とホメオパシーの療法家でもある医師のマリナ・シウマス・リンフ氏です。

アメリカからは、ホメオパスのケイト・バーチ博士が「ホメオパシーの予防におけるコロナウイルスに関する研究」を発表。ZEHNホメオパシーを実践する由井名誉会長のインタビューを紹介し国際公開されたドキュメンタリー映画「真の免疫」をされたホメオパスのシラ・ワトコットさんからもメッセージをいただきました。アメリカ在住JPHMA認定ホメオパス、オムソン真奈美さんからもZEHNホメオパシーのサポートセンターを使用中のコロナ対策を行って自らの体験についてレポートがあった。

ケイトバーチ氏は、新型コロナウイルスによる感染症について、ホメオパシーの予防の観点から、肺胞分泌物からつくられたもの・コロナウイルスノーズをホメオパシーの予防として、免疫を活性化し元気になるものとして発表。その中で、1年半かかかってコロナウイルスの状況をホメオパシーの視点で

みていると付け加え、とブルーピングについてまとめられた研究結果を2週間フォローし、急性の症状だけでなく、全体の症状をおしえてもらった。発熱と体の痛みはあがった。ノーズは免疫を上げて回復にむけたことがいえる。スパイクタンパクがアンジオテンシン受容体につくと炎症状態をつくりだす。遺伝的な要素が異なる。アンジオテンシンの受容体が多くなる。このシステムは、体液の脳下垂体、体液をとりいえることができる。バランスをつくる。このウイルスがどのような影響をあたえているかわかった。

そして、1年半かかかってコロナウイルスの状況をホメオパシーの視点でみていると付け加え、とブルーピングについてまとめられた研究結果を2週間フォローし、急性の症状だけでなく、全体の症状をおしえてもらった。発熱と体の痛みはあがった。ノーズは免疫を上げて回復にむけたことがいえる。スパイクタンパクがアンジオテンシン受容体につくと炎症状態をつくりだす。遺伝的な要素が異なる。アンジオテンシンの受容体が多くなる。このシステムは、体液の脳下垂体、体液をとりいえることができる。バランスをつくる。このウイルスがどのような影響をあたえているかわかった。

また、8月に新型コロナウイルスへのワクチン接種の中止をいち早く発表したルーマニアからは、3年前に来日JPHMAコングレでも発表いただいた植物療法とホメオパシーの療法家でもある医師のマリナ・シウマス・リンフ氏です。

アメリカからは、ホメオパスのケイト・バーチ博士が「ホメオパシーの予防におけるコロナウイルスに関する研究」を発表。ZEHNホメオパシーを実践する由井名誉会長のインタビューを紹介し国際公開されたドキュメンタリー映画「真の免疫」をされたホメオパスのシラ・ワトコットさんからもメッセージをいただきました。アメリカ在住JPHMA認定ホメオパス、オムソン真奈美さんからもZEHNホメオパシーのサポートセンターを使用中のコロナ対策を行って自らの体験についてレポートがあった。

ケイトバーチ氏は、新型コロナウイルスによる感染症について、ホメオパシーの予防の観点から、肺胞分泌物からつくられたもの・コロナウイルスノーズをホメオパシーの予防として、免疫を活性化し元気になるものとして発表。その中で、1年半かかかってコロナウイルスの状況をホメオパシーの視点でみていると付け加え、とブルーピングについてまとめられた研究結果を2週間フォローし、急性の症状だけでなく、全体の症状をおしえてもらった。発熱と体の痛みはあがった。ノーズは免疫を上げて回復にむけたことがいえる。スパイクタンパクがアンジオテンシン受容体につくと炎症状態をつくりだす。遺伝的な要素が異なる。アンジオテンシンの受容体が多くなる。このシステムは、体液の脳下垂体、体液をとりいえることができる。バランスをつくる。このウイルスがどのような影響をあたえているかわかった。



マリナ・シウマス・リンフ 医学博士



トレバー・ガン 生化学者



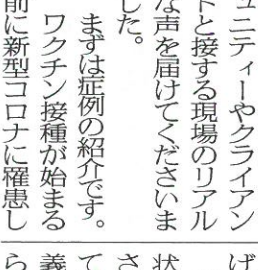
ケイト・バーチ ホメオパス



アニルバン・スクール 神経生理学博士



ジョーナ・ゾン ミット



シラ・ワトコット 監督



豊受レストランの 藤島氏



日本宇迦魂種苗の 都築明美代表



岡本隆廣氏、農場から中継

2日間、貴重な話展開

ホメオパスの症例発表

ホメオパスの症例発表は真剣で熱の入ったものとなった。そのトップ切ったのが工藤聖子ホメオパス。子どものアトピーを通して、母親の自死を乗り越えたケース。次にCHhom9期生の関守 桂子さんが「2

まの声を聞いて」 CHhom10期生塚野直緒美「乳児湿疹-母直緒美によるZEHNホメオパシーでの改善例」日本ホメオパシーセンター滋賀草津の今村 香

を覚悟した犬の毛包上皮腫が好転反応を経て改善したケース」日本ホメオパシーセンター久都ホメオパスが「コロナ禍でのメンタルヘル

父に先立たれた母を自宅にホメオパスとして介護する中で「気づき」と続いた。 リレトック

へのコロナ規制、ワクチンでの啓蒙活動として砂田裕一ホメオパスを始め工藤聖子 竹内久恵(録画)、荒川美由紀、そして自然派医師の高野弘之で守りぬくために」

【自然派実践発表】(伊豆の国市農協から中継)「豊受御古菌培養での土作りと耕作放棄地を自然農の田畑へ開墾していく挑戦」として日本豊受自然農協(函南農業部)リーダーの岡本隆廣氏が語った。

日本ホメオパシーセンター青森八戸の橋 央子ホメオパスが「インナーチャイルドセラピーで5年にわたる不妊治療から脱却、妊娠へ」。

日本ホメオパシーセンター練馬平和台の片上 敦子ホメオパスが「ジェムとジェモ、鉱物と日本の植物に秘められた癒やし」の力/学校生活に問題がある症例から」

CA州立大学などは既に強制接種で、拒否者はオンライン授業のみという扱い。1000人以上の野外イベントでは証明書と写真付きID提示が義務化されているそうです。ワクチンを打たない人の意識は尊重されるべきというつつ、実際には打たない人への差別や誹謗中傷、家族や社会からの断絶や分断が実際に起こっている。表には出ていないが、大学教授や生徒たちの個々の訴えが始まっており、勝訴しているケースもあるとのこと。しかしこのコロナ禍はネガティブな面ばかりではなく、この状況だからこそ多くの人が自分自身を見直すことができているのではないかと感じている。また、私たちホメオパスにはこれらの問題に対処できる最強のツールがある。霊性を上げ魂・心・体を癒すZEHNメソッドで自分の価値を自分で見出すことを目指したい、と心強いメッセージでした。